

CAVEで行こうよ！オーロラツアー ～ゴッホが見たオーロラ～

中川しおじ 佐藤暁子 羽太謙一
女子美術大学メディアアート学科研究室

1. 目的

普段見る事の出来ないオーロラとゴッホが描いた世界をCAVEに表示することで、ゴッホの目に映った世界を追体験すると共に新たなアートの提案とより手軽にオーロラを体験できる事を目的として制作を行った。

2. 動機

実際にオーロラを見るには高い費用を掛けて極地近辺に行く必要がある。しかしながら気候条件等により見られないリスクがある。オーロラの写真やイラストが多く発表され、疑似体験、ライブ中継なども行われているが没入感はない。CAVEを使用すればその場にいるような臨場感を得る事が出来る。

本研究では、ゴッホ1889年制作『星月夜』に描かれている情景とオーロラの形状の類似性に注目した。また浮世絵に影響を受けたゴッホの作風は明快な色彩であった。CAVEでは色数、ポリゴン数が少ない方が動作を快適に行える。以上の点から本研究ではゴッホが見たオーロラをコンテンツとして制作する事とした。

3. 制作方法

オーロラはC言語を用いて制作した。Photoshopにてテクスチャを制作、明暗、形の異なるテクスチャを複数枚作成し貼付けアニメーションさせた。背景はLightWaveを使用しシミュレート、VRMLにて座標を求めC言語を用いてCAVEへ移植した。Photoshopにてテクスチャ制作、これを貼付けた。

4. 課題とまとめ

CAVEへ移植した事によりオーロラのスピードが落ちぎこちなくなってしまった。なめらかな動きを表示することが課題である。本研究がゴッホ作品に対する新たな見方の一つとなればと思う。

参考文献

『オーロラ 太陽からのメッセージ』 上出洋介 山と溪谷社
『ゴッホ 全油彩画』 インゴ・F・ヴァルター／ライナー・メッツガー
『オマージュ ファン・ゴッホ ファン・ゴッホに捧げられた現代美術』
参考URL <http://www2s.biglobe.ne.jp/~miono/>



図1 ゴッホ『糸杉』1889年



図2 フェアバンクス上空 1998年

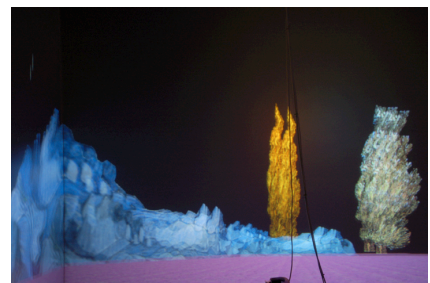


図3 CAVEに表示した様子